

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 中澤 由紀 所属：神奈川県立津久井養護学校 記録日：2017年 1月 19日
キーワード：シンボルによるコミュニケーション支援 Windows タブレット

【対象児の情報】

- 学年：県立特別支援学校 高等部3年 肢体部門在籍
- 障害と困難の内容 全身機能障害（身体手帳1種1級） 知的障害（療育手帳A1）
 - ・脳室周囲白質軟化症
 - ・ADLに関することは、ほぼ全介助を要する。車椅子への移乗も全介助を要するが、電動車椅子を自分で操作し校内を移動することができる。姿勢が右に傾きやすい。
 - ・伝えたいことはあるようだが、緊張が強くなり不明瞭。自分から意思表示したり、自己選択したりすることが少なく日常生活において、周囲を見渡して待っている（受身なこと）が多い。

【活動進捗】

- 当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況

【目標】

卒業後の生活をイメージしながら、「はい」「いいえ」以外にも他者に気持ちを伝えられるようになる。

- 実施期間（Windows タブレットを活用した期間）

2016年11月～2017年1月現在

- 実施者 中澤 由紀 高榮 博（担任）

- 実施者と対象児の関係

中澤 由紀（教育相談担当）・高榮 博（担任）とクラス内生徒

【活動内容と対象児の変化】

- 対象児の事前の状況

■言語理解について

- ・「はい」は発声したり、うなずいたりすることで、「いいえ」は「アー」という声と手や首を横に振る動作で伝える。
- ・朝のあいさつは？と聞くと本人なりに声を出して「おはー…」と発声する。
- ・身近な物（食べ物や日用品など）の名前や、どの教員と何の教科を学習するのかなど、日常生活に関わることであれば概ね理解している。
- ・文字の理解は1/3程度。

■表出コミュニケーションについて



- ・レッツチャット（個人所有で中3～利用）を使って本人が興味関心のある、力士や過去の担任の先生、野球についてなどを文字入力して伝えようとするが、時間がかかり過ぎて苛立ったり、自分で文字が想起できず途中で諦めて泣いたりする場面がある。



○活動内容

【iPad】

文字理解には難しさがあるため、シンボルを使ってコミュニケーションをはかる。

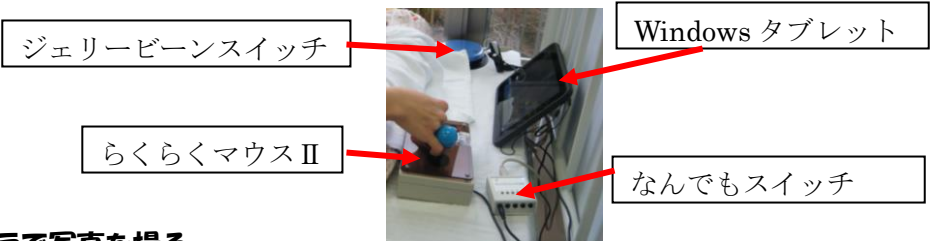
活用したアプリ	支援方法	対象生徒の変化
 <p>描けるセルボイスレコーダー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad、描けるセルボイスレコーダー、iPad タッチャー、スイッチ、をつなぎ、話したいボタンを選択させコミュニケーションをはかる（学校にある iPad タッチャーは2つだったため、教員がセルとスイッチをつないだ2つのセルから、本人が1つ選択してスイッチを押す）。 ・セル画面には文字だけでなく絵シンボルを活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業（喫茶班）では、お客さんに注文を聞いたり、ジョークを入れたセルを押したりすることでひとと楽しく関わる場面が増えた。 

課題

・セルの数だけの iPad タッチャーとスイッチが本校にはなかったため、どうしても教員がセルに合わせて iPad タッチャーを付け替えなければならなかった。そこで、オートスキャン設定を試みたが本人があまり好まなかった。


改善の手立て

本人と相談したところ、車椅子操作同様のジョイスティックスイッチで、選択肢からシンボルを選べるようにしたいとのことだったため、Windows タブレットを活用することに変更した。



【Windows タブレット】

操作に慣れることを目的としてカメラで写真を撮る

活用したアプリ	支援方法	対象生徒の変化
 <p>カメラ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①Windows タブレット②らくらくマウスII③なんでもスイッチ④ジェリービーンスイッチを接続し、自分でカーソルをシャッターボタンに合わせて、シャッターをきる。らくらくマウスIIのカーソル速度は低速で設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で撮影した写真を自分の見たいタイミングで開き、楽しむ場面が見られた。これまで印刷されたアルバムでは、自分でめくることは困難だった。しかし、タブレットでは操作に慣れると、嬉しそうに自分で他者にイチオシ写真（好きな先生とのツーショット）を見せ回る場面も見られるようになった。

シンボルを使って、他者に自分の気持ちを伝えられるようになる。

※生徒Aは文字が未修得なため、文字入力による困難さは期待できないことから、スタンプの種類が豊富なLINEを活用した。また生徒Aは卒業後も含め、家族と離れて暮らしていく予定であるため、家庭との連絡が手軽にできるもので、コミュニケーションがとれるとよいのではないかと考えて選定した。尚、卒業後の居住地においてもWifi環境と卒業後すぐにはノートPCが利用できる環境を設定してもらえることになっている。2017.2.14には職員さんが本校に来校して活用している様子を視察に来られ、徐々にベッドサイドでも活用可能なタブレットの検討も含めて今後も連携していくことになっている。

活用したアプリ	支援方法	対象生徒の変化
 <p>LINE</p>	<p>・対面の状態で以下のようなLINEのやりとりを行った。</p> <p>中澤：「Aくん、ドーナツは好き？」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>生徒A：笑顔のスタンプを選び、うなずいた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p>  <p>中澤：「じゃ、イチゴケーキはどう？」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>生徒A：イマイちな表情のスタンプを選んだ。</p> <p style="text-align: center;">↓</p>  <p>高榮：「イチゴケーキはあんまり…だったの？」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>生徒A：うなずいた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>高榮：「Aくん何でも食べるから嫌いなものなんかないと思ってたし、甘いものならなんでも好きだと思ってたけど、違ったんだね。」</p>	 <p>右のようなやりとりから、生徒Aは他者に①「ドーナツは好き」ということがはっきり伝わった②イチゴケーキは食べられなくはないが、「とても好き！」というわけではないということが伝わったと実感したようで、とても自信に満ちた表情をしていた。他にも、「ポテトは好きなの？」と聞いたところ、ニコやかなスタンプが6回送られてきた。続けて「とっても好きってこと？」と聞いたところ、本人は笑みを浮かべながら、何度もうなずいた。</p> 

【対象生徒の事後の変化】

■言語理解について

・周囲が話題にしている内容について写真、シンボル、絵を使ってタイムリーに可視化したコミュニケーションをはかることで、これまで曖昧だった内容について生徒Aは理解しやすくなり、表情が豊かになった。

■表出コミュニケーションについて

・これまでは Yes,No で言い切れることに関しては、うなずき (Yes) や首の横振り (No) を通して、周囲のひとに気持ちを伝えてきたが、今回 LINE のスタンプでのやりとりを通して、好き (Yes) なことに対して、どのくらい好きなのか (程度) を含め、細分化した感情を他者に伝えることができた。また、表情豊かなスタンプは、生徒 A の微妙な気持ちを代弁するのに有効なのではないかと考えられた。

【報告者の気づきとエビデンス】

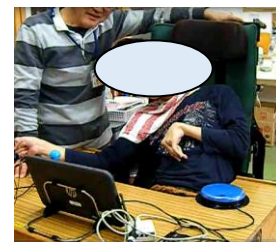
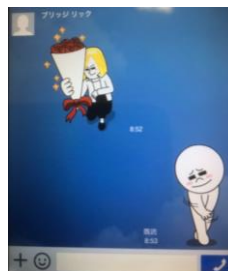
○報告者の主観的気づき

・相手に言いたいことが伝わったという実感の積み重ねは、主体的なコミュニケーションを促し、コミュニケーション能力を向上させるのではないかと考えた。

○気づきに関するエビデンス

・細やかな気持ちが他者に伝わる経験を繰り返したことで、自分からおもしろスタンプを活用して相手の反応を待つ様子が見られるようになってきた。相手から届いたスタンプをみて、嬉しそうな表情をしたり、声を出して吹きだしたりする場面もみられた。

・これまでは Yes,No でしか答えることができなかつた受け身のコミュニケーションが、スタンプを活用することで伝えかたただけでなく、冗談までも表出することが可能になった主体的コミュニケーションを促しつつあるのではないかと考えた。



【まとめと今後の課題】

・これまで教員から先に「○○はどう？」などの会話を受け、生徒 A がスタンプを使って返答するやりとりを中心に取り組み、それに応じた生徒 A の気持ちスタンプを活用してやりとりを楽しんだ。しかし時折、何を伝えかたのか理解しにくいスタンプを活用し、周囲に分かってもらえない場面もある。だが、本人としては以前であれば泣いて諦めていたが、他のスタンプや Yes,No のうなずきを併用しながら、伝えようとするようになってきている。

・生徒 A は相変わらず 50 音の理解は難しいが音声による言語は概ね理解しているため (日常会話の範囲内で本人に言われていることは概ね理解している)、自分の伝えたいことを音声で代弁してくれる音声付スタンプも活用し、より充実したコミュニケーションができるのではないかと考えている。卒業まで残り数カ月となった。卒業後の生活を見据え、他者と伝え合うコミュニケーション方法を確立し、進路先のスタッフさんや保護者ともより一層連携し、引き継ぎをしていきたいと考えている。



←本人が気になっている2つのスタンプ (スタンプシ検索していた)。
操作に慣れつつあり、ネットで調べることができるようになった。